# 千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第6週 (2/2-2/8) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患（五類感染症）

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

| 報告のあった定点数 | 6週 | 5週 | 4週 | 3週 |
|---|---|---|---|---|
| 小児科 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| 眼科 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ | 28 | 28 | 28 | 28 |
| 基幹定点 | 1 | 1 | 1 | 1 |

| 定点 | 感染症名 | 千葉市 注意報 | 2/2-2/8 6週 | 1/26-2/1 5週 | 1/19-1/25 4週 | 1/12-1/18 3週 | 千葉県 1/26-2/1 5週 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小児科 | RSウイルス感染症 | ○ | 9<br>0.50 | 8<br>0.44 | 5<br>0.28 | 5<br>0.28 | 53<br>0.40 |
| | 咽頭結膜熱 | | 1<br>0.06 | 1<br>0.06 | 5<br>0.28 | 2<br>0.11 | 22<br>0.16 |
| | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | | 44<br>2.44 | 41<br>2.28 | 52<br>2.89 | 23<br>1.28 | 290<br>2.16 |
| | 感染性胃腸炎 | | 116<br>6.44 | 131<br>7.28 | 112<br>6.22 | 158<br>8.78 | 1,088<br>8.12 |
| | 水痘 | | 4<br>0.22 | 8<br>0.44 | 5<br>0.28 | 2<br>0.11 | 67<br>0.50 |
| | 手足口病 | | 1<br>0.06 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 7<br>0.05 |
| | 伝染性紅斑 | ○ | 12<br>0.67 | 9<br>0.50 | 11<br>0.61 | 8<br>0.44 | 98<br>0.73 |
| | 突発性発しん | | 12<br>0.67 | 14<br>0.78 | 8<br>0.44 | 14<br>0.78 | 53<br>0.40 |
| | 百日咳 | | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 |
| | ヘルパンギーナ | | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 |
| | 流行性耳下腺炎 | | 4<br>0.22 | 0<br>0.00 | 1<br>0.06 | 7<br>0.39 | 42<br>0.31 |
| インフル | ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く） | ↓↓★ | 469<br>16.75 | 762<br>27.21 | 888<br>31.71 | 782<br>27.93 | 6,082<br>28.42 |
| 眼科 | 急性出血性結膜炎 | | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 |
| | 流行性角結膜炎 | | 2<br>0.40 | 9<br>1.80 | 2<br>0.40 | 2<br>0.40 | 19<br>0.58 |
| 基幹定点 | 細菌性髄膜炎<br>（髄膜炎菌性髄膜炎を除く） | | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 1<br>0.11 |
| | 無菌性髄膜炎 | | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 1<br>1.00 | 0<br>0.00 |
| | マイコプラズマ肺炎 | | 0<br>0.00 | 1<br>1.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 1<br>0.11 |
| | クラミジア肺炎<br>（オウム病を除く） | | 1<br>1.00 | 0<br>0.00 | 1<br>1.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 |
| | 感染性胃腸炎<br>（ロタウイルスに限る） | | 1<br>1.00 | 1<br>1.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 1<br>0.11 |

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

## 2 全数報告対象疾患（4件）

| 病名 | 性 | 年齢層 | 診断（検査）方法 | 病名 | 性 | 年齢層 | 診断（検査）方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 結核 | 男性 | 60歳代 | 画像診断 | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 男性 | 70歳代 | 病原体の検出 |
| 結核 | 女性 | 50歳代 | IGRA検査等 | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 女性 | 10歳未満 | 病原体の検出 |

・結核2件（15）、侵襲性肺炎球菌感染症2件（5）の報告があった。

※ （）内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

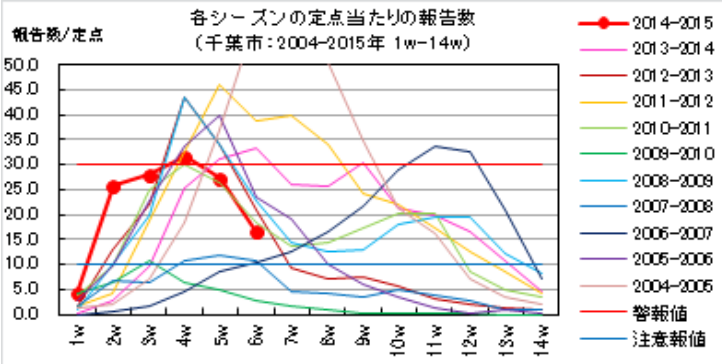
## 定点当たり報告数　第6週のコメント

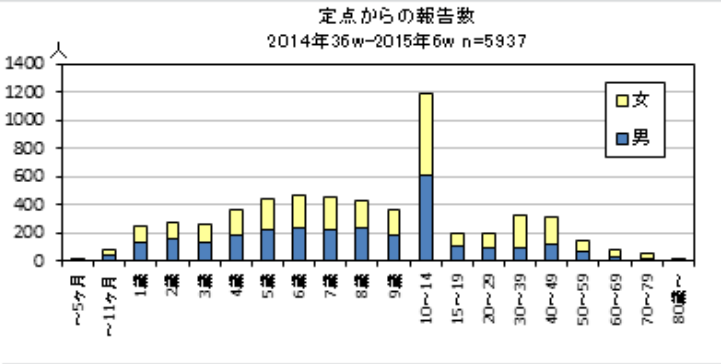
＜RSウイルス感染症＞前週より増加し0.50となった。過去10年の同時期と比べると多い。
＜伝染性紅斑＞前週より増加し0.67となった。過去10年の同時期と比べると多い。
＜インフルエンザ＞前週より減少し16.75となった。依然として流行発生警報継続基準値は上回っている。過去10年の同時期と比べると少なめ。

■ トピック ■

## ＜インフルエンザ＞

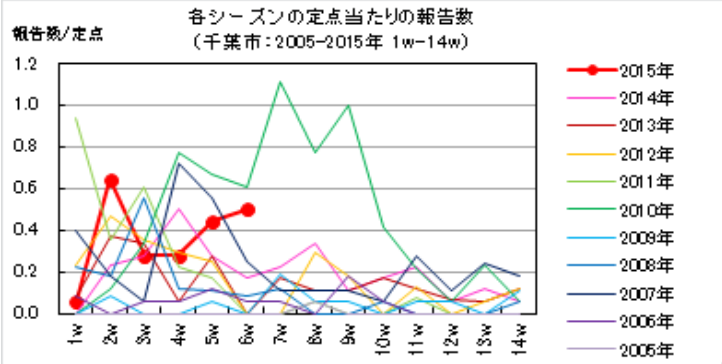
全国レベルの2015年第5週現在は、前週より減少し流行発生警報開始基準値（30.0/定点）を下回りました。流行発生警報継続基準値（10.0/定点）は上回っています。過去8年間の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、大分県、鹿児島県、山口県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干少なめとなっています。千葉市の2015年第6週は、前週より減少し16.75となりましたが、依然として流行発生警報継続基準値は上回っています。過去10年の同時期と比べると少なめとなりました。区別の発生状況では、中央区（26.8/定点）で最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは8歳で最も多く報告されました。全区で流行警報継続基準値又は流行注意報基準値（共に10.0/定点）を上回っています。今シーズンである2014年第36週から2015年第6週現在の累積報告数（n=5937）によると、性別では男性が49.4%（2930名）、女性が50.6%（3007名）で、年齢階級別の1年代当たりでは6歳（7.88%：468名）、7歳（7.61%：452名）、5歳（7.50%：446名）の順に多くなっており、全体に占める20歳未満の割合は80.9%（4801名）、10歳未満の割合は57.5%（3415名）となっています。

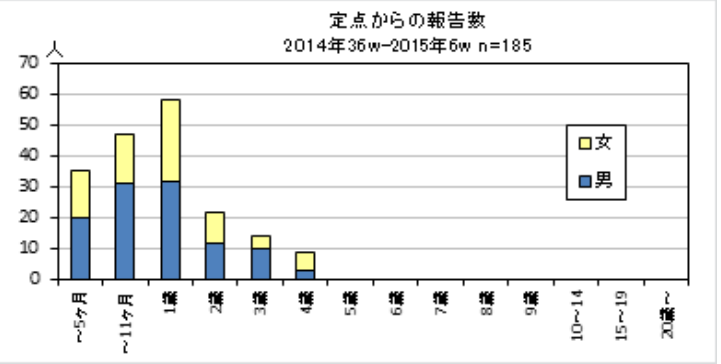


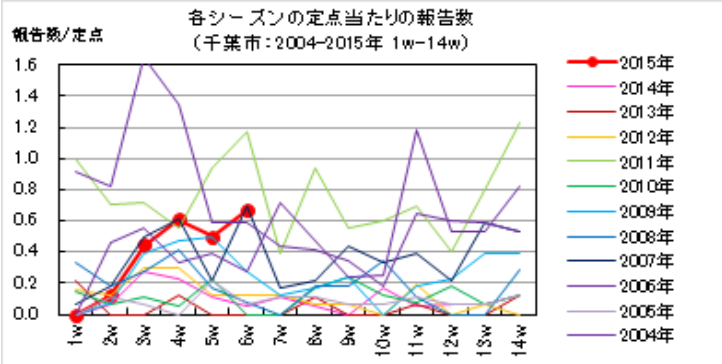
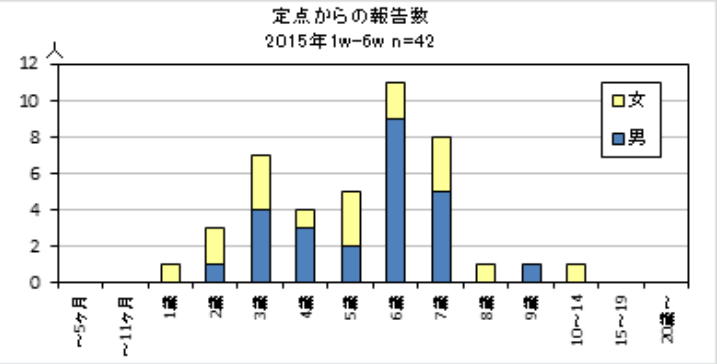




## ＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの2015年第5週現在は、前週より増加し過去8年間の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、和歌山県、佐賀県、愛媛県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2015年第6週は、前週より増加し0.50となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、中央区及び緑区（共に1.0/定点）で最多で中央区では3歳、緑区では2歳で最も多く発生が報告されました。今シーズンである2014年第36週から2015年第6週現在の累積報告数（n=185）によると、性別では男性が58.4%（108名）、女性が41.6%（77名）で、年齢階級別では1歳（31.4%：58名）、6-11か月（25.4%：47名）、0-5か月（18.5%：35名）の順に多くなっています。




## ＜伝染性紅斑＞

全国レベルの2015年第5週現在は、前週より増加し過去8年間の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、宮城県、石川県、神奈川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2015年第6週は、前週より増加し0.67となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、緑区（1.75/定点）で最多で、同区の4歳及び7歳で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第6週現在の累積報告数（n=42）によると、性別では男性が59.5%（25名）、女性が40.5%（17名）で、年齢階級別では6歳（26.3%：11名）、7歳（19.0%：8名）、3歳（16.7%：7名）の順に多くなっています。